



# 2009年度 第2四半期 決算説明会

2009年11月17日  
ユニチカ株式会社

## 2009年度 第2四半期決算の概要

(金額単位:億円)	2009年度 上期	2008年度 上期	前年同期比増減		当初予想比	
			金額	率	当初予想	差異
売上高	902	1,079	▲176	▲16%	870	+32
営業利益	39	26	+14	+54%	35	+4
経常利益	19	12	+7	+55%	15	+4
四半期純利益	6	5	+1	+18%	5	+1

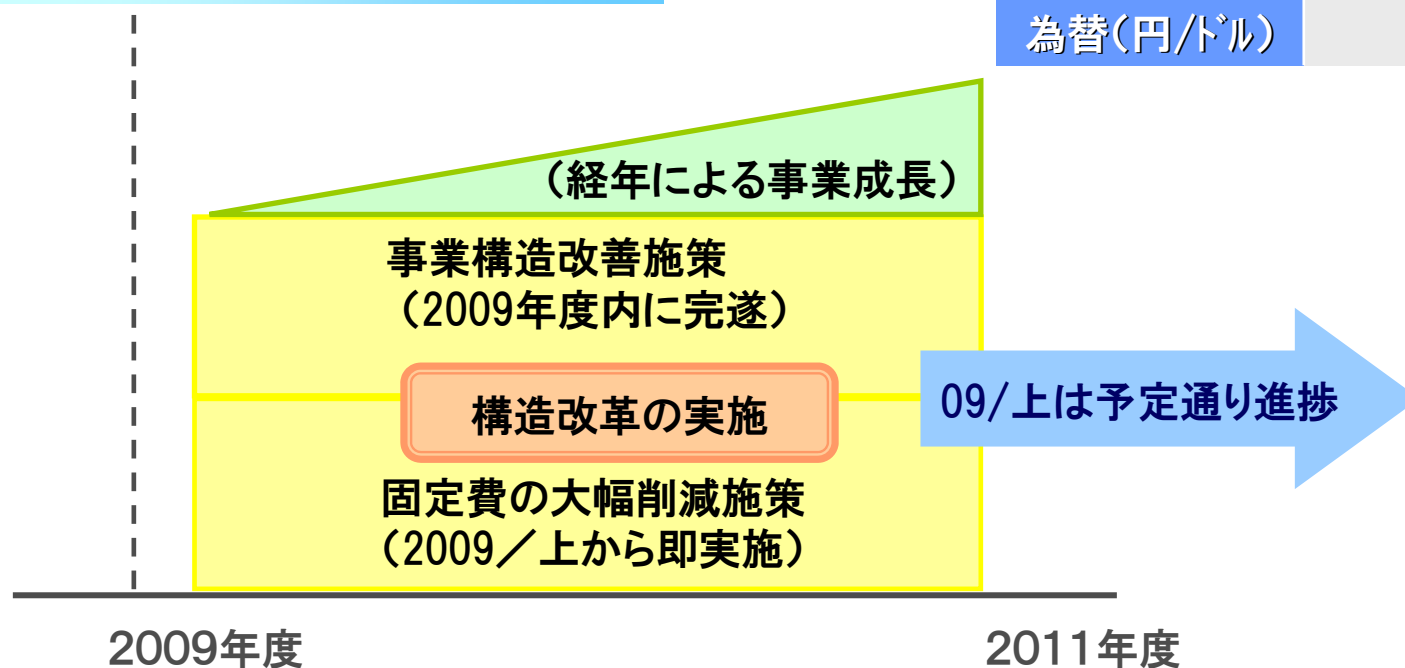
- ◆ 昨年後半からの世界的な景気悪化の影響により減収
- ◆ 事業構造改善、固定費削減の実施等により全体として増益
- ◆ 繊維事業は厳しい業況が続いているが、事業構造改善施策が計画通り進捗

## 中期計画『改革'11』 初年度の位置づけ等

年度	経済環境の前提
2009年度上期	実需減 + 在庫調整が続く ⇒ 計画策定時の状況が続く
下期	需要減が続く ⇒ 減少幅は小さくなる

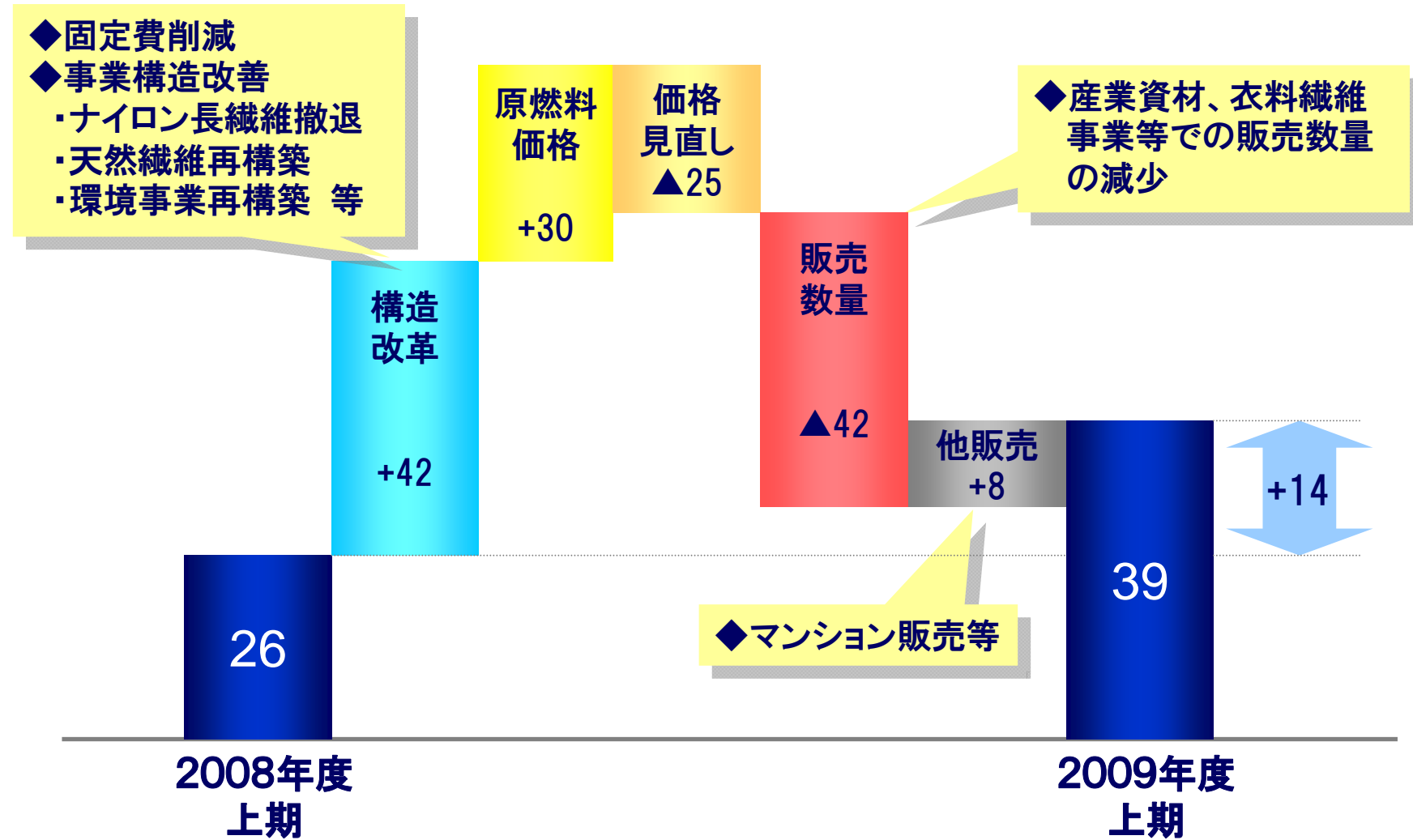
事業の「選択と集中」推進  
⇒ 収益基盤の建直し

当初計画与件	2009年度
原油(\$/バレル)	50-60
為替(円/ドル)	95



# 営業利益増減要因分析（前年同期比）

（単位：億円）



## B/Sの状況

	2009年 9月末	2009年 3月末	前期末比 増減	
(単位:億円)				
<b>資産合計</b>	<b>2,765</b>	<b>2,828</b>	<b>▲64</b>	売上債権、棚卸資産 の減少等
流動資産	1,097	1,151	▲54	
固定資産	1,667	1,678	▲10	
<b>負債合計</b>	<b>2,551</b>	<b>2,631</b>	<b>▲80</b>	買掛債務減少、構造 改善引当金取崩等
<b>純資産合計</b>	<b>214</b>	<b>197</b>	<b>+16</b>	
株主資本	182	176	+6	四半期純利益計上、 為替換算調整等
評価・換算差額等	▲5	▲15	+10	
少数株主持分	37	36	+1	

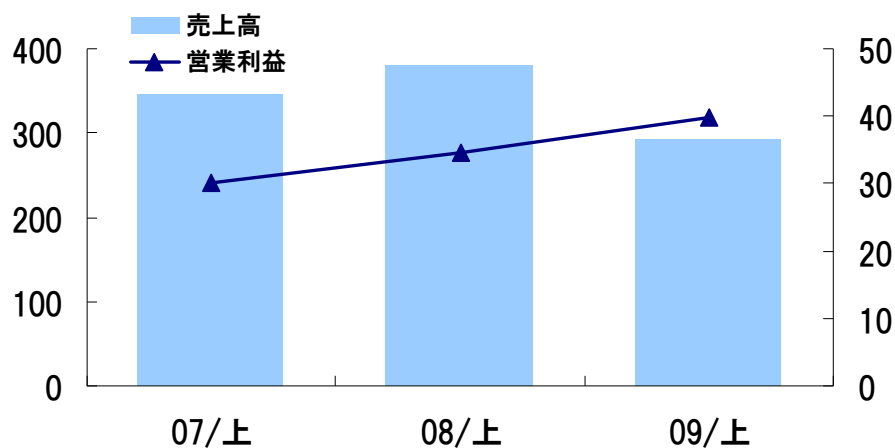
## セグメント別収益変動(まとめ)

(単位:億円)	売上高			営業利益		
	2009年度 上期	2008年度 上期	増減	2009年度 上期	2008年度 上期	増減
高分子	292	381	▲89	40	35	+5
環境・機能材	110	144	▲34	5	2	+3
繊維	385	476	▲91	▲6	▲2	▲4
生活健康・その他	116	78	+38	12	3	+9
消去・全社				▲11	▲11	+1
合計	902	1,079	▲176	39	26	+14

## セグメント別状況 ◆ 高分子事業

➤ 販売は前年同期比減少、足下は回復基調 コストダウン等で増益継続

(単位:億円)	07/上	08/上	09/上
売上高	347	381	292
営業利益	30	35	40
(営業利益率)	9%	9%	14%

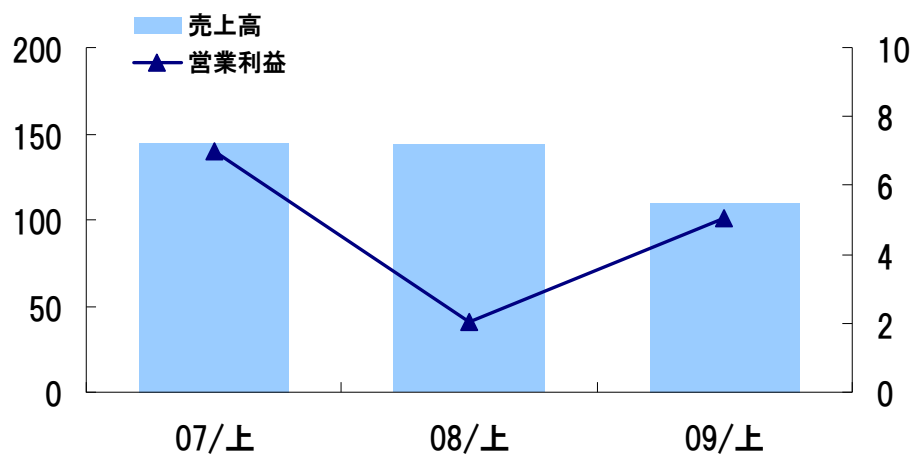


□ フィルム 〔減収増益〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 包装分野 販売回復の動きがやや鈍化</li> <li>◆ 工業分野 IT関連で受注改善</li> <li>◆ 海外は収益改善基調</li> </ul>
□ 樹脂 〔減収減益〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 設備投資関連は低調、自動車、電機電子分野は回復基調</li> <li>◆ 「Uポリマー」の売上減</li> </ul>
□ 不織布 〔減収減益〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ スパンボンド 生活資材堅調、産業資材低調</li> <li>◆ 綿スパンレース 化粧雑貨用途が堅調</li> </ul>

## セグメント別状況 ◆ 環境・機能材事業

➤ 環境事業は案件絞込み等で採算改善、機能材事業はガラス関連が苦戦

(単位:億円)	07/上	08/上	09/上
売上高	145	144	110
営業利益	7	2	5
(営業利益率)	5%	1%	5%



### □ 環境

[減収増益]

- ◆ 引続き公共事業の発注量低迷
- ◆ 工事受注案件の選択と集中、コスト削減等で採算改善
- ◆ 水処理改善、メンテ分野堅調

### □ 機能材

[減収減益]

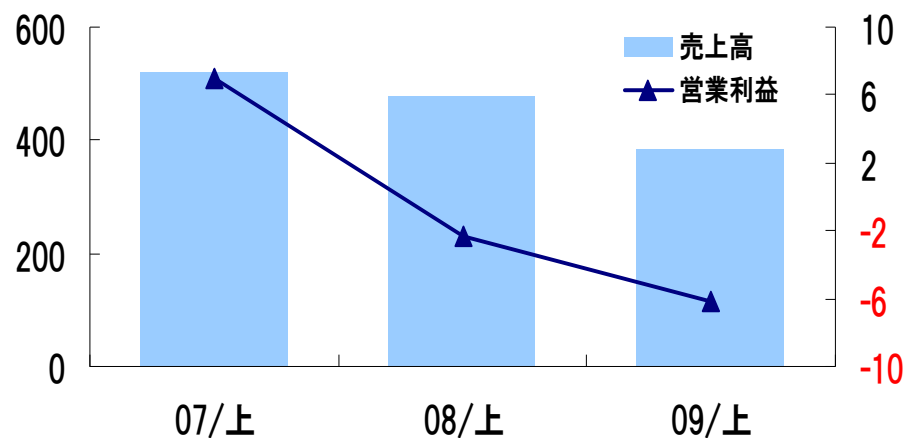
- ◆ 活性炭繊維は堅調
- ◆ ガラス素材関連  
産業資材用ガラス繊維は低調  
ICクロスは底打ち  
ガラスビーズは輸出が減少



## セグメント別状況 ◆ 繊維事業

➤全体として業況は厳しいが、構造改善が予定通り進捗し足下の採算改善

(単位:億円)	07/上	08/上	09/上
売上高	518	476	385
営業利益	7	▲2	▲6
(営業利益率)	1%	▲0%	▲2%



### □ 合成繊維

[減収減益]

- ◆ ナイロン長繊維  
一部特殊銘柄除き撤退  
構造改善効果発現
- ◆ ポリエステル繊維  
一般系、産業資材とも低調
- ◆ ビニロン繊維  
アスベスト代替FRCは苦戦

### □ 天然繊維

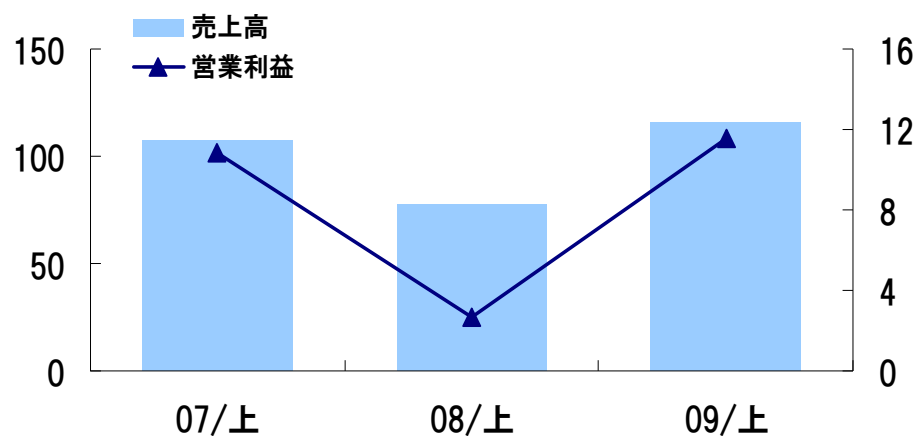
[減収減益]

- ◆ 一般衣料、ユニフォーム低調  
(ユニフォームは一部改善の兆し)
- ◆ ウール工場閉鎖・綿紡織工場  
縮小等で製造コスト低減

## セグメント別状況 ◆ 生活健康・その他事業

➤ 生活健康事業は横ばい、マンション販売での好転要因等により収益改善

(単位:億円)	07/上	08/上	09/上
売上高	107	78	116
営業利益	11	3	12
(営業利益率)	10%	3%	10%



□ 生活健康 [収益横ばい]	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 食品機能素材伸長 (セラミド、アラビノース等)</li> <li>◆ メディカル 循環系カテーテル伸長 酵素分野が苦戦</li> </ul>
□ その他 [増収増益]	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ マンション販売堅調</li> <li>◆ その他事業は横ばいで推移</li> </ul>

## 2009年度 通期決算予想

(単位:億円)	2009年度 予想	2008年度 実績	前年度比 増減
売上高	1,820	2,096	▲276
営業利益	85	78	+7
経常利益	40	33	+7
当期純利益	35	▲140	+175

与件	09/下
原油(\$/バレル)	70-80
為替(円/ドル)	95

- ◆当初の通期業績予想から変更なし
- ◆景気低迷の継続を背景に売上減少基調が続くが、自動車、電機電子関連、中国向け等で徐々に数量回復の見込
- ◆構造改善の進捗等により、繊維事業、環境・機能材事業を中心に更なる採算改善

## セグメント別収益変動 通期予想

	売上高			営業利益		
	2009年度 予想	2008年度 実績	増減	2009年度 予想	2008年度 実績	増減
(単位:億円)						
高分子	600	685	▲85	86	82	+4
環境・機能材	220	304	▲84	20	19	+1
繊維	800	906	▲106	0	▲2	+2
生活健康・その他	200	200	▲0	13	13	▲0
消去・全社				▲34	▲35	+1
合計	1,820	2,096	▲276	85	78	+7

## セグメント別 営業利益の変動要因

➤ 構造改革進捗、数量回復等を背景に下期へ向けて更に利益改善

(単位:億円)	2009年度			上/下差 要因見込み
	上期実績	下期予想	通期	
高分子	40	46	86	数量回復、採算改善 等
環境・機能材	5	15	20	環境事業改善、機能材数量回復 等
繊維	▲6	6	0	構造改善進捗、販売季節要因 等
生活健康・その他	12	1	13	不動産関連収益の減少(上期傾斜) 等
消去・全社	▲11	▲23	▲34	
合計	39	46	85	

## 今後の経営課題

### ➤ 今期は構造改革完遂による所期の効果発現、収益基盤改善が最重要課題

- ・固定費削減策は年度を通じて予定通りの進捗が見込まれる
- ・計画に掲げる事業構造改善施策(下表)への取り組みに注力

内容	進捗
① ナイロン長繊維事業撤退	09/上 生産停止
② ウール・綿紡織事業再構築に伴う工場閉鎖・縮小	09/上 ウール工場生産停止 09/下 綿紡織工場の機台集約
③ 環境事業の再構築	09/上～ 水処理事業への集中
④ 電子基板事業の見直し	09年度内に着手
⑤ 衣料繊維事業の再編統合 関連各社衣料繊維事業をグループ商事会社へ統合	10/1付 ユニチカレーディング(株) 設立

### ➤ 更に中期計画期間において、高分子、機能材料分野を中心とした機能資材メーカーとしての基盤を確立し、事業力の改善を図る

## 設備投資等の状況

(単位:億円)	2009年度		2008年度	
	通期予想	上期実績	通期実績	上期実績
減価償却費 (前年比)	71 (▲2)	32 (▲2)	73	34
設備投資 (前年比)	42 (▲40)	18 (▲31)	82	50

[セグメント別内訳]	通期予想	上期実績
高分子	21	9
環境・機能材	3	1
繊維	12	5
生活健康・他	7	3

◆固定費削減策の一環として  
設備投資選別を行い、償却  
費負担増を抑制

## ご注意

**本資料中の予想は、決算発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る決算発表日現在における仮定を前提としているため、実際の業績は、今後の種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。**